
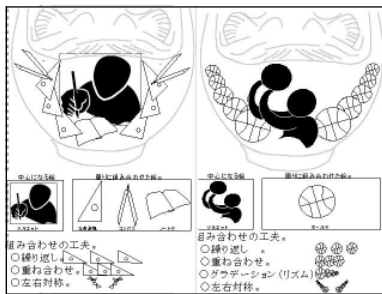


題材指導計画

題材		だるまに願いを (全8時間)		
目標	自分の願いを表現するためのだるまを、絵柄やポスターカラーの扱いを工夫してデザインする。			
評価 規 準	関心・意欲・態度	願いを絵柄で表現することに関心を持ち、願いの表し方を工夫しようとする。		
	発想や構想の能力	単純化や強調、構成の仕方を工夫して、自分の願いを形や色を効果的に使い表現の構想をする。		
	創造的な技能	ポスターカラーをだるまの材質や形状に合わせ適切に扱い、自分の願いを絵柄で効果的に表現する。		
	鑑賞の能力	高崎だるまや完成した自他のだるまを鑑賞して、よさを味わう。		
過程	時間	学習活動	支援及び指導上の留意点 (太字は、研究上の手立て)	
美術 作 品 を 味 わ う	1	<ul style="list-style-type: none"> ○ 高崎だるま(図1)を鑑賞し、思いや願いを色や形を使い、叶えようとする表現の工夫を感じ取る。 ○ 表現課題「自分の願いを絵柄で工夫して表し、だるまに美しく表現する」をつかむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ だるまの色・形・絵柄に着目させ、生徒がよいと感じたことや疑問に思ったことの中から、色や形、絵柄を使い思いや願いを叶えようとしていることや、それを表すために誇張や変形したデザインの工夫があることへの気付きにつながるものを取り上げ、よいと感じた理由や疑問への答えを考えさせる。 ○ 考えをグループで伝え合わせ、共感や新たな気付きを促し、高崎だるまの色や形に願いや思いを託し、表現しているよさを理解させる。 ○ グループでの意見交換で出た考えを全体に発表させ、教師がその考えを整理して、思いや願いを叶えるためにだるまの色や形、デザインが工夫されていることを理解させる。 ○ 表現課題を告げ、自分がだるまに込めたい願いを考えさせ、表現への意欲を高め、高崎だるまのよさを生かした自分の表現の発想・構想ができるようにする。 	 <p>図1 高崎だるま</p>
	ふくらませる・ねる	2	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の願いからイメージを広げ、だるまデザインに入れる中心の絵柄を単純化や強調を使い考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 高崎だるまの色や形に願いや思いを託し、表現するよさを生かして、自分の願いをだるまの腹部分に絵柄で表現することを伝え、だるまに表したい自分の願いを決めさせる。 ○ ウェッジングにより自分の願いのイメージをふくらませ、願いを表すための絵柄の発想を広げさせるようにする。 ○ 自分の願いを効果的に絵柄で表現できるように、単純化や強調を活用した絵柄の作例(図2)を提示する。
	3	<ul style="list-style-type: none"> ○ まわりに入れる絵柄を考え、それらを組み合わせ構成し、アイディアスケッチにまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 願いを美しく効果的に表すために、中心になる絵柄の周りに絵柄を入れ、組み合わせで表現していくことを伝える。 ○ ウェッジングしてでたそれぞれの言葉を絵柄にさせ、だるまデザインに取り入れる絵柄の発想を広げさせる。 ○ 絵柄の繰り返しや対称の配置、形のグラデーション、重ね合わせなど、中心と全体のバランスを考えた画面構成をだる 	 <p>図3 中心と全体のバランスを考えた作例</p>

		<p>まデザインに取り入れた作例を提示し(図3)、中心と全体のバランスを考えて、アイディアスケッチが描けるようにする。</p>
4	<ul style="list-style-type: none"> ○ 願いを効果的に表すための配色を考え、アイディアスケッチに着彩する。 ○ 絵柄の下描きをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 色の組み合わせを工夫して、自分の願いを効果的に色で表すことができるように、暖かい・寒い、軽い・重い感じの色の組み合わせ、色相や彩度の色の対比の効果を説明し、それらを応用しただるまデザインの配色例を提示し(図4)、自分の願いのイメージに合った配色ができるようにする。 ○ 平面に描いたアイディアスケッチとそれをだるまの球面に描いた下描きの例を提示し、微調整して描画した部分を説明し、アイディアスケッチをだるまの球面に合わせて描画できるようにする。
あ ら わ す	<ul style="list-style-type: none"> ○ 絵柄の彩色をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 美しく彩色することができるように、絵の具を溶く水の量や混色、筆使いなどのポスターカラーの適切な扱い方や球面での筆先の運び方を教師が示範してみせる。 ○ 彩色面の広いだるまの背中部分から彩色を進め、だるまへの彩色に慣れさせてから細かな絵柄を彩色させるようにする。
自 他 の 作 品 を 味 わ う	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒同士で作品を鑑賞してよさを味わう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の活動を振り返り、だるまに込めた願い・絵柄の説明・絵柄の組合せや色の選び方の工夫点・彩色の工夫点・完成しただるまから感じるよさ・どこに飾るかを考え、ワークシートに記入させ、制作の過程を振り返ることができるようにする。 ○ ワークシートに記入した制作の意図などを発表し合い、友達の作品のよさを認め合い、気付いたよさを賞賛し合えるようにする。



図4 だるまデザインの配色例の提示



図2 完成作品の例